

避難・被災児童生徒のための授業づくりの提案

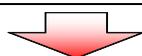
「ふれ合い」と「つながり」をつくる

NP0日本教育カウンセラー協会 日本教育カウンセリング学会

避難した児童生徒がいる学級や被災した地域の学校では、どんなことに気をつけて授業を進めればよいのか、育てるカウンセリングを生かした授業づくりを提案します。

◆避難・被災児童生徒の心◆

- ・避難した土地での新しい学校生活や友だち関係に不安をもっている。
- ・友だちが被害に遭ったり転校したりして、淋しい思いをしている。
- ・肉親や知り合いで被災し被害に遭った人がおり、ショックを受けている。
- ・慣れない土地での生活や長い避難生活にストレスを感じている。

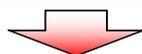


◆授業での対応は◆

児童生徒の不安や淋しさ、ショック、ストレスを軽減させるために、授業の進め方を工夫することが必要です。「対話のある授業」を心がけ、授業で「ふれ合い」と「つながり」をつくるようにしましょう。

◆授業づくりのポイント◆

- 1 笑顔で接し、動機づけを大切にして授業の参加意欲を高める。
- 2 ペアの活動から始め、友だちとかかわり合うグループ活動を多くする。
- 3 分かち合いで気づきや思いの広がりを作ることで関係を深める。
- 4 授業のねらいに沿った自己開示を行うことで本音と本音の交流を図る。
- 5 学習ルールの指導を徹底し、安心して自分と向き合う環境をつくる。



「対話のある授業」で気持ちや感情の交流を活潑にし、「ふれ合い」と「つながり」をつくることで、学級を避難・被災児童生徒の心の居場所にする。

◆育てるカウンセリングを生かした授業づくりの提案◆

- 1 笑顔で接し、動機づけを大切にして授業の参加意欲を高める。

教師の笑顔で、子どもに「安心感」「温かさ」「楽しさ」を味わわせる

- ①教師の笑顔で学級の安心感を高め、温かい関係づくりの原動力とする
 - ・1時間の授業で1回以上、子どもの変化や努力を見つけ、笑顔で話す。
 - ・子どもの笑顔を見つけて伝えることで、子どもの安心感を高める。
- ②分かりやすい指示や発問、説明を工夫し、授業への参加意欲を高める
 - ・活動のねらい、やり方などを分かりやすく話す。(インストラクション)
 - ・具体的なイメージをもって活動できるように説明する。(デモンストレーション)
- ③楽しく、充実感のある展開の工夫し、子どもの行動や態度のよさを伝える
 - ・子ども同士が認め合い、讃え合う場面を多くする。
 - ・個人、グループ、学級に対して肯定的な言葉かけをする。

2 ペアの活動から始め、友だちとかかわり合うグループ活動を多くする。

ペアやグループで教え合うことで友だちとのかかわりをつくる

- ①ペアやグループの活動は、ねらい、方法を分かりやすく伝える。
 - ・ねらい（「お互い気づいたことを話します」）や方法（「右側の人から話します」）を分かりやすく説明する。
- ②隣の席の子どもとのペアの活動から始め、グループの活動に進むようにする。
 - ・活動では、ルール（「相手のよいところを見つけて伝えます」）や時間（「2分間やりませう」）、モデル（「先生と〇〇さんでやってみます」）を示して行う。

3 分かち合い（シェアリング）で考えや気づきの広がりを作る。

互いの良いところや気づいたことを分かち合う場面を増やす

- ①授業の中に子ども同士が考えや気づきを話し合う場面をつくる
 - ・ペアシェアリング ・グループシェアリング ・全体シェアリング
- ②授業のねらいを達成するように、分かち合いの内容や方法を工夫する
 - ・ねらいに焦点化する ・教師がアイメッセージで語る ・挙手による分かち合い
 - ※アイメッセージ（「私は……と思う」のように私を主語としたメッセージの伝え方）

4 教師が授業のねらいに沿った自己開示を行う。

教師が自分を開き、自分を語ることで本音と本音の交流を図る

- ①授業のねらいを達成するために教師自身が自分を語るようにする
 - ・授業の導入、終末などに、教師の考えや思い、気づきを話す。
- ②教師の気づきを伝えることで子どもとの関係を深める
 - ・嬉しかったことを語る ・新しい発見を語る ・次時への期待を語る
- ③教師が自分を語るモデルを示し、子どもが自分を開くことができるようにする
 - ・子どもが安心して自分を語るができる環境や雰囲気をつくる。

5 学習ルールの指導を徹底し、安心して自分と向き合う環境をつくる。

ルールをつくり、問題行動に対応することで、安心して活動できるようにする

- ①学習ルールを決め、くり返して指導することで、みんなができるようにする。
 - ・聞く、発言する、学習用具を整える等の学級の学習ルールを決め、守るようにする。
- ②授業に打ち込めない子どもに対しては、個別の対応を行う
 - ・気持ちを聞く ・気持ちを受け止める ・見守って待つ ・別室で休ませる

避難・被災児童生徒のために、授業での心の交流を活発にし、「ふれ合い」と「つながり」をつくりましょう。

◆学校や先生方の相談窓口◆

特定非営利活動法人 日本教育カウンセラー協会（会長 國分康孝）

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15

TEL 03-3941-8049 FAX 03-3941-8116 <http://www.jeca.gr.jp/>

富山県教育カウンセラー協会（代表 水上和夫）

〒930-0115 富山市茶屋町847

FAX 076-436-5464 <http://www5f.biglobe.ne.jp/~ToyamaEca>